

2022 年度 関西大学総合情報学部  
帰国生徒入学試験問題

小 論 文

注意事項

- 問題は 2 種類あります。問題 A、問題 B のうちいずれか 1 つを選択し、解答してください。両方を解答することはできません。
- 解答用紙は、必ず、選択した問題番号用の用紙を使ってください。
- 試験時間は 90 分です。

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

【問1】ブルースの歌詞の特徴を中心に著者の主張を100字以内でまとめなさい。

【問2】時系列に沿った物語歌は、人々にどのような影響を与えるだろうか。あなたの考えを200字以内で述べなさい。

【問3】断片的な言語こそが、その潜在的な多義性を逆手にとって神秘的な理念を象徴的・暗示的に表しうると言われる。断片的な表現が受け容れられるためには、その表現にどのような工夫をする必要があるだろうか。あなたの意見を400字以内で説明しなさい。

ブルースは、なにについてだって歌える歌だ。昔、ある言語学者が、ブルースは、甘ったるい愛や恋の夢物語に終始するポピュラー・ソングとは違う、「人生の現実」を直視する音楽ジャンル、つまりは大人の音楽なのだといった。それは本当にそうなのだが、しかし、ブルースマンに愛や恋が歌えないわけではない。ただ、それはシロップまみれではなく、苦みや辛さやそして豊かなうまみをそなえた、つまりは人の人生にしっかり根を下ろしたラブソングなのだ。(中略)

彼(ロバート・ジョンソン：引用者注)と旅をして伴奏したジョニー・シャインズは、ジョンソンがあるときセントルイスで、スロウテンポで感情をこめてこの曲を歌ったら、「聴衆が静まりかえった、気がついたら、男も女もみんな泣いていた」と証言している。

いったい、何が聴衆を泣かしたのか。それを推測するために、ちょっと寄り道をして、ブルースの歌詞と、バラッドに代表されるような物語歌(叙事詞)の違いを再確認しておこう。(ジョン・ヘンリー)や(スタッガー・リー)のようなバラッドの歌詞では、歌手が語り手として、一番、二番、三番……と出来ごとの時系列に沿って、ひとつのストーリーを語っていく。ブルースの歌詞の仕組みは、それとはだいぶ違う。一番、二番、三番……のヴァース(歌詞)で歌われる出来事は、一つのお話になっているわけではなく、そのそれぞれの独立性は高い。一つのヴァースが、独立した短歌か、あるいは映画の一シーンのようなもので、それが一定のモチーフや連想でゆるやかにつながり合わされて、ブルースの一曲が形作られる。歌い手は、「自分の経験や思いを歌う」という形で(それが作りごとであるとしても、そういう形式をとって)、きわめてしばしば一人称で、感情をこめて歌詞を歌う。時系列に沿って一つの物語が語られるわけではないから、録音のテイクや演奏によって歌詞の差し替えは自在だし、他の歌からの歌詞の借用や引用も思いのままだ。こうした形をとるため、物語歌に比べて、ブルースは感情表現の強度が高い。また、「oh, well」「woo, hoo」「Lord have mercy」といった間投詞の頻用も、感情的な訴えかけの力を強くする。(中略)

この曲では、「うちの台所にお入りよ、あんた／どうやら雨が降りそうだから」という誘いのことばの繰り返しによって、聴き手は頭の中に一つの場面を浮かび上がらせることができ、それによって曲想に一定のまとまりが生まれている。(中略)こうした歌詞のばらばらさ、いいかえれば断片化がもたらす多様性がかえって、ブルース歌唱が聴き手を感情移入させ、身につまされるようにする働きを増幅していると思われる。歌詞が断片的であればあるほど、より多くの聴き手がそれを自分の個人的な経験とシンクロさせることができるというわけだ。この歌を生で聴いたジョンソンの聴衆の多くには当然、恋人に去られたことや、トラブルに見舞われたこと、蓄えが尽きかけて困窮したこと等々の経験があったはずだ。この歌はそうした人たちの胸に届いて追体験を呼び覚まし、涙を誘っただろう。

この歌のリフレインが示唆する場面について、少しだけ勝手な想像をしてみよう。家の勝手口のすぐ外で、立ち話するジョンソンと彼が語りかける相手。ジョンソンはなかなかのレイディーズ・マン(モテ男)だったらしいから、その相手は女性だと思いたいが、男であってもかまわない。(中略)相手はそのポーチ(勝手口の外にあるバックポーチのこと：引用者注)まで上がってきて、ジョンソンと世間話をしている。空が雨模様だから、中へ入って雨宿りをしてお行きとジョンソンは誘う。相手が女性だと考えれば、三番や四番は、そのまま口説きの歌になる。(中略)「うちの台所にお入りよ」という誘いは、そうした含みも持ちうる。もちろん、それをただの雨宿りの提案と聞くこともできるわけで、そうした多義性、つまり複数の解釈に開かれていることは、よいブルースの歌詞の一つの特徴だ。

出典：中河伸俊著「黒い蛇はどこへ 名曲の歌詞から入るブルースの世界」株式会社トゥーヴァージンズ 2021年  
(出題の都合上一部改変)

以上

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

【問1】この文章を400字以内で要約しなさい。

【問2】下線の「認知革命」によってもたらされた影響を100字以内で説明しなさい。

【問3】SNSが対話と異なる理由を200字以内で説明しなさい。

科学技術には良い面もあれば悪い面もあります。最初は良い面に注目が集まりますが、ある域を超えると今度はネガティブな面が強調されていきます。(中略)それは、言葉も同じです。

言葉は、人間が手にした技術の中で最初にして最大のものといってよいと思います。人間の認知能力は、言葉の発明によって一度つくり変えられました。これが、「認知革命」と呼ばれるものです。かつて言葉は人々の間のトラブルを調整するための交渉にも使われていたはずだし、集団間の暴力を鎮めるためにも使われていたでしょう。だから人間は集団を大きくすることができました。国家という巨大な組織をつくることができたのも、言葉によってバーチャルな世界をつくり、その物語を共有してみんながまとまれるようになったからです。(中略)しかし、やがてその言葉が、暴力をつくり出すために使われるようになると、だんだん人間にとってネガティブな作用をし始めます。

言葉を発達させるうちに、文字も生まれました。最初は、石や木に書いていた文字を、紙に書くようになり、やがてそれを印刷するようになる。さらに技術が進み、テレックスができ、ファクスが生まれ、そして今、わたしたちはインターネットを通じて電子文字でつながるようになりました。

そもそも文字を介した理解には、常に疑いがつきまといまいます。会って話していれば、発せられた言葉だけの意味ではなく、相手の顔の表情や仕草、声色から裏の意味や背景を同時に感じることができます。相手の言葉を聞きながら、「おそろく嘘を言っているな」とか「本気みたいだな」と思ったりするのは、人間は言葉を話しているとき、無意識のうちに感情を出すものであり、同時に相手の感情を読み取る能力をもっているからです。話し手は、相手の解釈が間違っていると感じたら訂正することができます。本来、言葉の役割が発揮される場所は、こうしたやり取りが可能な場面でした。(中略)

ラインなどのSNSがあたかも対話しているかのような使われ方をしていますが、それは、あくまでシンボルを使った文字世界の延長です。ラインを利用している人の中には、すぐに返事が来るから対話と同じような信頼関係をつくれていると反論する人もいるかもしれませんが、その論理には二重の意味で誤解があります。

一つは、言葉は抽象化されたものだということ。誰かと話をしているとき、それは出来事すべてを表しているわけではなく、出来事をいったん言葉という抽象的なシンボルに集約してそれを再現しているだけのものです。実際には、言葉だけで相手の感情はわかりません。

もう一つは、文字化したり、肉声ではないものに変換してしまったりした場合、そこにさらに時間的な要素が加わるということです。言葉を話すということは本来、瞬間の作業でもあります。対話を書き言葉にすると、Aさん「…」、Bさん「…」というように、時系列に並べられることとなりますが、実際は、相手が話しているとき、相手の言葉を聴きながら、自分が次に話すことを考えている。それは書き言葉では表現できません。文字は、相手の言葉を受けて考えた結果出てくるものではあるけれど、その瞬間に自分の胸の中に生じた感情とは違うものです。書き文字の行間を読み取ることはできても、実際に言葉を肉声をもって交わし合っている状況とは違うのです。そこにも齟齬が生じます。(中略)

言葉を生み出し、文字を発明し、今、インターネットの世界を介して言葉をやり取りしているわたしたちは、こうした言葉の負の面にもあらためて目を向ける必要があるのではないのでしょうか。

出典：山極寿一著「スマホを捨てたい子どもたち 野生に学ぶ「未知の時代」の生き方」  
株式会社ポプラ社 2020年(出題の都合上一部改変)

以上